

さいたま市立東岩槻小学校
学校運営協議会
会長 野邊 哲治 ㊟

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

- 「基礎学力の向上」の視点について
 - ・教師がクラス全員を授業に集中させる工夫をしていたり、ICTを活用したりすることで、児童が主体的に学習している姿が見られた。
 - ・全学年、来校者に挨拶をするなど元気に授業を受けていた。雰囲気乱す児童もおらず、落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られた。
 - ・若い教員が多いので、ベテランの教員から指導技術を伝承するような時間があるとよい。
 - ・クラスによって授業展開に違いを感じた。小規模の学校という特徴を生かした指導方法の工夫（教科担当制など）ができるとよい。
 - ・各学級で宿題の出し方や忘れ物をした時の対応が違っているため、児童への一環した指導として、どのような対応が適切か学校として検討するとよい。
 - ・小・中学校ともに「基礎学力の向上」が課題となっているため、小学校の段階から継続して児童が学習に取り組むようになるような働き掛けが必要である。
- 「豊かなかかわりの充実」の視点について
 - ・個別的な学習ではなく、他の児童と協働するような授業が展開されていた。
 - ・学校運営協議会主催音楽会では、本協議会の熟議内容を生かしてが生かされ実施されたのがとても良かった。音楽会は「豊かなかかわりの充実」につながるよい取組であった。
 - ・鼓笛にかわる地域行事への参加について、地域と深くかかわりがもてる方法を考えていく必要がある。
 - ・児童のスマートフォンを使う時間が多くなっているため、デジタル機器の使用制限などの家庭のルール作りが大切である。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- ・学校課題研修を推進し、児童の学習意欲を高めるための授業改善や指導方法の工夫について協議する授業研究会を実施するなどして、若手を含む全教職員の指導力向上を図っていく。
- ・教育課程編成委員会・年度末における教科等部会で、児童の生活習慣や学習習慣を定着させたり、地域とのかかわりをより深めたりすることができる教育課程への見直しを図っていく。
- ・「すわっ子スタンダード」「いきいき生活カード」を改訂して家庭との連携をさらに深めていく。また、「いきいき生活カード」の中にデジタル機器の扱い方について明記するなど、SNSにかかわるトラブルの防止に努める。
- ・コミュニティ・スクールを推進し、地域総掛かりで子どもたちを育むため、熟議の場で学校の課題を議題とし、地域、保護者、学校の3者が何をできるのか議論を重ねていく。

校長氏名 小野 圭司 ㊟